

(2) 指導(単元)計画作成の解説 小学校

○単元名「目の不自由な人がくらしやすい東大崎にしよう」(全 25時間)

みがく

社会的に注目された行事や国語の教科書に載っている教材を使って学習対象に出会わせる。

インターネットで情報を収集するだけでなく、インタビューや実施調査などの体験活動の機会を想定する。

段階	時数	○主な学習活動 ※指導上の留意点
課題の設定	6	○東京パラリンピックの写真や動画を見たり, 3年国語下「パラリンピックが目指すもの」を読んだりして, 気付いたことを話し合う。 ※視覚障害者が競技を行えるようにするための工夫やパラリンピックの価値について知ること, 視覚障害への関心を高める。 ○視覚障害者の生活を想像したり, 目隠しをして教室や廊下を歩いたりする体験を通して, 視覚障害者の生活について考える。 ○知りたいことや疑問に思うことを調べる方法について話し合う。 ※実感を伴う理解をするにはどのような方法が良いかという視点で考えさせる。 ○疑似体験を通して, 不便さを実感する。 ○個人で仮の課題を設定する。 ※課題を設定するときの視点について知らせることで, 探究する価値のある問いを設定させるようにする。 ○仮の課題を再検討し, グループで話し合いながら本課題を設定する。 ※クラゲチャートを使うことで, 各自の思考を可視化しながら話し合いを進めさせる。
情報の収集	6	○グループごとに情報収集の計画を立てる。 ※インタビューや実地調査など多様な情報収集の手段があることを知らせることで, 手段がインターネットに偏らないようにさせる。 ○グループごとに情報収集を行う。 ・疑似体験の追加調査 ・学校周辺の実地調査 ・社会福祉協議会の方や視覚障害者へのインタビュー ・インターネットや図書資料を使っの調査 など ※活動場所が教室と校外など, 担任一人では対応が難しい場合は, 他の教員に協力をもらう。

協

…協働的な学びを充実させるための学習活動

はしる

体験活動に取り組む必要感を引き出すために, 言葉掛けを工夫する。

協

話し合いをする中で, 自分の考えの焦点化を図り, 課題を明確にする。

児童の活動にできる限り寄り添うようにするため, 他の教員の協力をもらうことも想定し, 依頼する。

協

一人では十分な情報を集められなかったとしても、グループで協力することで、様々な情報を集められることを実感させる。

今後の見通しを持たせるようにすることで意欲を継続させたり、活動に連続性を持たせたりする。

まとめ・表現することを通して、学習を深めていけるような言葉掛けをする。

整理・分析	6	○グループ内で各自が集めた情報の共有を図りながら、情報の入手先ごとに整理する。 ○整理・分析の方法を考え、集めた情報から分かることは何か、視覚障害者がくらしやすい東大崎にするにはどうすれば良いかなど、自分たちの考えを検討する。 ※KJ法やピラミッドチャートなどの思考ツールを使いながら、各自が集めた情報を整理させたり話し合いをさせたりすることで、考えを整理させたり思考ツールを使うことに慣れさせたりする。 ○自分たちの考えを伝えるためには、どの情報を選択すれば良いかを考え、話し合う。 ※伝える相手は誰か、特に何を伝えたいかなど、相手意識や目的意識を持たせるようにすることで、次のまとめ・表現につなげる。
	6	○福祉協議会の方に自分たちの考えを聞いてもらうという相手意識や目的意識を明確にし、まとめ・表現の計画を立てる。 ※今回は、Keynote を使ってまとめることとし、簡単なプレゼンテーション資料作成の仕方について全体で学ぶ機会とする。 ○視覚障害者がくらしやすい東大崎のために、自分たちが伝えたいことを Keynote でまとめる。 ※話し合いをしたり、文章に表現したりする中で、自分の考えをより明らかにしたり、新たな課題を見付けたりできるようにさせる。 ※説得力のある発表とするために、根拠となる資料と方法を選択させる。 ○福祉協議会の方に向けて発表する。 ※福祉協議会の方から講評をいただくことで、他者評価を受ける機会とする。
	1	○単元を振り返り、視覚障害者との関わり方について考えたことを振り返りシートにまとめ、意見交換をする。 ※目が不自由な人に対する考え方が、学習の前と後でどう変わったか。学習を通して、新たに気付いたことや分かったことは何か。学習した結果新たに見えてきた課題は何か。などの視点を示した上で考えを記入させる。 ※意見交流や話し合いを通して、障害があることは「不便ではあるが不幸ではない」ということに気付かせるようにする。

思考を可視化するために思考ツールを活用させる。

伝えるための具体的な方法を身に付ける機会を設定し、今後の活動でも生かせるようにさせる。

協

社会福祉協議会の方からの励ましをもらうことで、社会に関わる喜びを実感させる。

小学校

○単元名「エコプロジェクト～大谷の海の環境を守るために～」(全35時間)

みがく

はしる

段階	時数	○主な学習活動 ※指導上の留意点
課題の設定	12	○海に親しむ集いで行った海岸清掃について振り返る。その際、活動時の写真を見せることで、想起させやすくする。 ※「どのようなごみがあったのかな？」と問うことで、児童に活動で持ち帰ったごみを詳しく見てみたいという思いを持てるようにさせる。
		○海岸清掃で拾ったごみを確認する。
		○分別したごみの重さを量ったり、分類したごみ毎に写真をとったりして感じたことをワークシートに整理する。
		○今後の学習の見通しを立てる。
		※ごみ調査に至るまでの児童の思いが大切となるので、児童に揺さぶりを掛けながら、活動に行かないと学習が深まらないという切実感を引き出す。
		外部講師による講話①
		○学校行事でお世話になった外部講師の講話を聞く。 ※普段から海に関わる仕事をしていて、その中で感じる「海洋ごみ」についての現状や思いを伝えてもらう。 ※学校行事で児童が見えてこなかったと推察される内容(ごみの種類やごみの分別方法など)について話していただくことで、単元の主活動への児童の意欲付けを図る。
		○単元の主活動「大谷海岸のごみ調査」を行う。 ※自分たちの手で、今度はどれくらいごみが集まるのかしっかり調べたいという意欲を持たせる。
		○ごみ調査を行って感じたことを整理する。
		※体験活動後の振り返りをワークシートにまとめさせる。
		外部講師による講話②
		○外部講師にごみ調査の結果を伝える。 ※児童が調査で気付かなかった点や関心の薄い事柄について講話していただく。
		○海洋ごみの現状について知る。

児童が主活動を希望し、詳しい調査方法を外部講師に聞きたいと思うようになることを想定した上で計画を立てる。

「これからどうするの？」などと児童をゆさぶりながら、主活動への切実感を引き出す。その際は、児童の反応を待ち、上がってきた声を大切にしながら学習の方向性を決定する。

ワークシートの記述から活動での児童の気付きを見取り、指導に生かす。

協

情報収集では、専門家等へのインタビューすることが、課題解決の手掛かりとなることを伝える。
整理・分析では、自分とは異なる視点から意見交換を行うことで、話し合いの質を高めさせる。

児童が関わった外部人材や地域の大人と関わる機会を設定することで、児童に社会参画の意識を持たせる。

		※世界各地に広がる海洋ごみの現状を、映像資料を通して見せることで、大谷の海で起っていることが世界でも起っていることに気付かせる。 ※児童にこれまでの学習の中から一番興味・関心のある事柄を選び、探究課題を設定させる。
情報 の 収 集	7	○個人で課題を設定した後に、似ている考えごとにグルーピングする。 ○課題を調べるための方法について具体的に考える。 ※「みんなの疑問を解決するためにどのようなことが必要ですか？」と問うことで、情報収集の方法について考えさせる。 ・インターネットや本を使って調べる。 ・漁師さんにインタビュー(電話なども可)する。 ※児童が目指す学習のゴールについて確認する。(まとめ方、発表対象等) ○グループごとに必要な情報を集める。 ※調べる方法がインターネットに偏らないように、外部講師からいただいた資料や図書室の書籍、インタビューなど様々な手段で情報収集を行うことでより良い成果につながることを伝える。
整 理 ・ 分 析	5	○グループごとに、調べたことをまとめる上で必要な情報を整理する。 ※KJ法等の思考ツールを使って、どの情報が一番必要か、足りない情報は何か等についてグループで話し合わせる。 ※必要に応じて再調査を行っても良いことを伝える。
ま と め ・ 表 現	11	○テーマを基に調べたことを、構成を考えながらポスターにまとめる。 ※資料や写真の効果を考えながらまとめさせる。 ※発表原稿も作成し、ポスターを活用して発表できるようにさせる。 ※発表原稿が二次的情報をそのまま読むだけのようなものにならないように留意させる。(自分たちの言葉になっているか) ○ポスターや発表原稿の推敲を行う。 ○大谷の海の環境を守るための取組について発表会をしよう。 ※可能であれば講師の方々を招待する。 ※グループに分かれてポスター発表会を行い、感想を伝え合う。 ※道の駅に児童の成果物を掲示する。 ○発表会を振り返り、感想をまとめたり、新たな課題を見付けたりする。 ※振り返りの観点を示し、調べて分かったことやこれから更に取り組んでいきたいことについてまとめる。

学習の方向性を児童に問い、単元のゴールイメージを全体で共有することで、今後の活動に目的意識を持って臨めるようにする。

中学校

○単元名「地元で学び、地元を知ろう」(全20時間)

みがく

はしる

段階	時数	○主な学習活動 ※指導上の留意点
課題の設定	夏休み	○町について気になっていることや調べてみたいことを見付け、レポートを書き、○○町に対する興味・関心を高める。 ※回収したレポートで、生徒の興味・関心を把握する。
	7	○夏休みの課題で出た個人の意見を基に、テキストマイニングやウェビングを行い、学級全体で情報を共有する。 ※小学校での地域学習を振り返らせ、まだ発見していない町の魅力があることに気付かせる。 ※町に対する興味・関心を高めさせ、町をよく知る人から話を聞いてみたいという思いを持たせ、次時の講演会へとつなげる。 ○町の歴史やまちづくりについての講演会に参加し、地域の専門家や役場職員から話を聞く。 ※「過去のまちづくり」と「現在のまちづくり」について知り、より良い町にするために、中学生としてできることに取り組もうという思いを持たせ、課題の設定へとつなげる。 ○夏休みの課題や講演会を通して生まれた興味・関心や疑問を基に、どんなことを探究したいかについて、自分の考えや思いをまとめる。 ※生徒の記述を基に、教員側で探究グループ編成(案)を作成する。 ○探究していきたいと思う内容が近いメンバー同士で、探究グループを作る。個人で取り組みたい場合は、個人探究でも良い。 ※探究グループ編成(案)を生徒に示し、最終調整を行う。 ※編成終了後からは、担任・副担任でグループを分担し、まとめ・発表まで指導・助言する。 ○夏休みの課題や講演会を通して生まれた興味・関心や疑問を整理し、個人の問いを作る。 ○個人の問い基に、グループで意見を出し合い、グループとしての探究課題を設定する。 ※自分たちが本当に取り組んでいきたいと強く思える探究課題となるように、生徒の話合いを見守り、適宜支援する。

地域の専門家や役場職員の話を直接聞かせる機会を設定し、題材に対する興味・関心を高めさせたり、疑問を持たせたりする。

町について気になることや調べてみたいことを生徒目線で発見させる。レポートを基に、生徒の興味・関心を把握し、「課題の設定」の指導に生かす。

協

個人の問いの共通点や関連性について話し合わせ、グループとしての探究課題を設定させる。

情報の収集	4	○学習の見通しを持つために、課題解決に向けた調査計画を立てる。 ○書籍、資料、インターネットから情報を収集する。 ※インターネットで調べきれなかったことについてインタビューするために、質問項目をグループでまとめさせる。 ※事前に地域コーディネーターやボランティアなどの人材をリストアップしておく。(協働教育担当が持っているリストを活用する) ※連絡調整が必要な場合は、学年主任が窓口となる。 ○地域の専門家や役場の職員等にインタビューを行い、必要な情報や資料を収集する。 ※直接インタビューに行くことができない場合は、電話、メール、ファックス、オンライン等を活用し、実施する。 ※複数グループのインタビュー先が同一の人物や団体である場合は、質問項目の精選を行う。回答までの時間を見越し次時を設定する。 ※他グループの学習の途中経過を参考にさせる。 ※収集した情報は、紙ファイルや、タブレット端末に蓄積させる。
	2	○収集した情報から、○○町をより良い町にするための提案として必要な情報を吟味する。 ※一次情報、二次情報、三次情報の違いに触れ、信頼できる情報であることを確認させる。 ※まとめ・表現での発信の方法も視野に入れ、内容を吟味させる。
	6	○グループで学習してきたことを基に、より良い町にするための提案をまとめる。 ※まとめ方は、壁新聞、個人新聞、ポスター、プレゼンテーション、動画等グループの学習に合わせて選択させる。 ○探究発表会を行う。 ※1グループの持ち時間を、発表、質問・感想、準備・片付けも含めて10分とし、2時間で発表会ができるようにグループ数を割り当てる。 ※地域の専門家や役場の職員にも聞いていただく。 ※この単元の学習を通して、町の魅力に気付かせ、未来の町のために自ら関わっていきこうという前向きな心を育みたい。(社会参画の心)
	1	○これまでの取組や地域の方々から学んだことを振り返り、これからの自分の生き方について考える。 ※今後も「探究的な学習」に取り組んでみたいという気持ちで学習を終える。

協

グループで話し合わせ、調査計画を立て、見通しをもって学習ができるようにさせる。

調査計画を基に、情報収集の仕方やインタビュー先を把握し、「情報の収集」の指導に生かす。

協

他グループの学習と比較させ、参考になるところや自分のグループの足りないところに気付かせ、学習を深めさせる。

「整理・分析」をした結果、情報の収集が足りない場合は、追加調査を促したり、魅力や改善策の提案につまずいている場合は、具体的に助言したりする。

協

他者評価を受けることで、新たな課題に気付かせたり、社会に関わることへの喜びを感じさせたりする。

今回の探究的な学習を通しての自分の成長を生徒に気付かせ、次の学習へとつなげる。

インターネットだけの情報収集だけにならないようにさせるために、インタビューや追加調査の手段を設定する。

収集した情報を使って、町の魅力やより良い町にするための改善策について考えさせるために、出典を確認させ、情報を吟味させる時間を確保する。

相手意識や目的意識を明確にした上でまとめ・表現させるようにする。また、自分たちの提案がより伝わりやすい発表の手段も選択させるようにする。

高等学校

○单元名「自己理解を深めよう」(全 28 時間)

みがく

はしる

段階	時数	○主な学習活動 ※指導上の留意点
課題の設定	8	○「自己理解プロジェクト(総合的な探究の時間)」の学習内容について知る。 ※教師が事前に作成した成果物をモデルとして提示し、その成果物を示しながら発表している様子を視聴させる。 ○探究課題のテーマを導き出し、決定する。 ※思考ツールとしてウェビングマップ(ワークシート)を活用し、課題を設定させる。 ○課題解決に向けて、どのように探究活動を行うか、探究活動計画書にまとめ、活動の見通しを持つ。 ○探究活動計画書を級友の前で発表する準備をする。 ○HRで探究活動計画書の発表をする。 ※自分の発表に対する級友からの意見・感想を確認するとともに、必要に応じて今後の探究活動の方向性を修正させる。
情報の収集	6	○課題解決のために PC 室のPCや生徒用タブレット端末、個人の ICT 端末、図書資料などを活用したり、観察、実験したりして情報収集することを知る。 ○観察・実験等を実施し、情報を収集する。 ※情報源が一つのものに偏らないように、複数の情報源から情報を得るように助言する。 ○獲得した情報や収集・蓄積の方法について情報交換する。 ※グループで獲得した情報や情報の収集の方法について、良かったことや困っていることについて情報を共有させ、自分の探究活動にフィードバックさせる。

ウェビングマップを活用しイメージを広げることで、テーマを多面的に捉えたり、細分化して具体的に捉えたりする機会を設定する。

教師が手本を示すことにより、生徒に今後の活動について見通しを持たせる。

協

異なる視点での意見を受け、自分の意見を再検討させる。

インターネットで情報を収集するだけでなく、観察、実験などの体験活動の機会を設定する。

協

多様な情報などを活用させるため情報交換を通して考えさせたり、話し合ったりさせる。

ある事象に対する複数の情報を集めることで、整理・分析の過程で、情報の比較、分類、関連付けなどしやすくさせる。

生徒の思考を可視化させるために思考ツールを活用する場面を設ける。

整理・分析	4	○収集した情報の比較, 分類, 関連付けなどを行い, 自分なりの結論を導く。 ○情報を分析するに当たり, 必要に応じて思考ツールを活用し, 思考を可視化する。 ※思考ツールを使うことや新たな問いを立てて分析することを生徒の作業の進行状況などに合わせて助言・提案する。 ○自分なりに出した結論に対して, 他者から評価を受ける。 ※教師と面談する機会を設定し, 生徒の探究活動の成果について検討するとともに, 必要に応じて教師がテーマの焦点化や情報の追加収集を助言したり, 提案したりする。
	8	○課題解決の成果をだれにどのような項目でまとめ伝えるのか, 教師の作成した例などを参考にしながら, ポスターを作成する。 ○各HR教室で作成したポスターを使って, 探究した内容について発表をする。 ○次時に各教室で掲示して全体への発表ができるように準備する。 ○各HR教室にポスターを貼付した模造紙を張り出す。 ○各教室を巡り, 各HR教室にポスターが貼られているのを見学する。 ※自分が興味を持った発表や内容が良かった発表についてワークシートに理由などを書き込み提出させる。 ※ワークシートのコメントは, それぞれの発表者にフィードバックする。
まとめ・表現		
振り返り	2	○これまでの活動を振り返るとともに, 自分が探究を通して身に付けたこと, 高まったこと, 深まったこと, 伸びたことを記述し, 学習活動を通して得た新たな問いや考えなどをワークシートにまとめる。 ○次年度の活動について見通しを持つ。

相手意識や目的意識を明確にしてまとめたり, 表現したりさせる。

協

他者の存在を意識させることにより, 生徒の相手意識や仲間意識を育ませる。

生徒の作業の進捗状況などを見取り, それに合った助言や提案などを行う。

協

教師と生徒が面談の中で多様な情報や異なる視点を出し合い, 探究テーマについて検討するための機会を設ける。

他の生徒のコメントから新たな気付きや問いを持つことができるようにさせる。